

笠間長石シリーズの製品化支援

【開発の背景・経緯】

これまで陶磁器原料としては利用されていないものの、笠間を代表する特産品である稲田石を釉薬の原料として利用するため、令和3年度に笠間焼協同組合と共同研究を行ない、その特徴や釉性状を調べました。その成果により、笠間焼協同組合では令和4年2月から稲田石微粉末を新原料「笠間長石」として販売を開始しました。また、これを用いた陶磁器を「笠間長石シリーズ」と名付け、「笠間の陶炎祭」(令和4年4月29日～5月5日)からシリーズの販売やPR活動を開始しました。

【支援内容】

地域の原料を用いた笠間ならではの作品づくりに積極的な陶芸家から笠間長石に関して多数の相談が寄せられ、原料としての特徴や使用方法などについて情報提供を行ないました。また、陶炎祭では、企画展ブース「特別展 笠間長石～稲田石から産まれた新しい笠間焼～」を含め、約50名の笠間焼作家が笠間長石シリーズの展示販売を行ないました。

陶炎祭以降も、笠間長石を定番商品の釉薬に使用したいなどの相談が多く寄せられています。それぞれの課題や問題点を聞き取り、笠間長石を用いた釉薬の開発や改良のため、原料配合比の提案や焼成条件についての情報提供など、笠間長石シリーズの発展を支援しています。

【開発した製品の紹介】

ここでは、陶炎祭以降にギャラリーでの常設販売などに至った代表的な事例を2つ紹介します。

＜製品化例①＞ 支援先 河野陶房（河野カイ）

支援内容 笠間長石独特の発色や質感を持つマット釉開発のため、原料配合比や釉薬の粉碎条件の提案など

製品名 mikage シリーズ カップ（2,420円）など

価格帯 1,320～11,000円（税込）

取扱店舗 笠間工芸の丘（笠間市）、
回廊ギャラリー門（笠間市） ほか



＜製品化例②＞ 支援先 関川佳古

支援内容 笠間長石を用いたマンガン釉および白マット釉の原料配合比の提案など

製品名 笠間長石白マット釉×マンガン釉
四角皿、輪花皿、楕円皿 など

価格帯 1,000～7,800円（税込）

取扱店舗 笠間工芸の丘（笠間市）、
PAO（静岡県内ギャラリー） ほか



基礎となった事業

令和3年度 オンリーワン技術開発支援事業（共同研究）

令和3～4年度 試験研究指導費（技術相談）

担当グループ

窯業技術G

グループ長

寺門 秀人

TEL:0296-72-0316

主任研究員

吉田 博和

会計年度職員

小林 真弓

陶芸人材G

グループ長

尾形 尚子

会計年度職員

根本 達志

会計年度職員

新島 佐知子